

胃がん検診を受診される方へ

胃がん検診を安全に実施するため、
次の項目に該当する方は、検診を受けることができません。
すでに、申込みが済んでいる方は、一人でも多くの方が申込み
めるよう事前キャンセルにご協力をお願いします。

- 1 **バリウム過敏症の方**（過去にバリウムにより体調不良を起こしたことがある）
- 2 **次の病気で過去に治療を受けたことがある方**
消化管の穿孔（穴が開いた）・腸閉塞・腸捻転・大腸憩室炎
胃を全摘 小腸・大腸の手術をしている 開腹手術3回以上
- 3 **胃や十二指腸及び小腸・大腸の病気で治療中の方**
- 4 **1年以内に手術した方**（腹腔鏡手術含む）
腹部、心臓病、呼吸器疾患、頭部、運動器（椎体（背骨）、関節など）
2か月以内に大腸内視鏡手術をした方を含む
- 5 **重篤な病気または体調不良を起こす恐れがある方**
1年以内の発作（脳血管疾患、虚血性心疾患、不整脈、てんかん）
未治療または治療を継続していない糖尿病
脳圧亢進でシャント中 大動脈瘤（治療中または未治療の方）
メニエール病（治療中または自覚症状がある）
- 6 **透析中、心不全、慢性腎疾患等で水分制限がある方**
- 7 **呼吸困難や肺炎をおこす恐れがある方**
過去にバリウムが気管に入ったことがある 喘息発作がある
普段からむせやすい方 在宅酸素療法中
- 8 **撮影台から転落の恐れや撮影が困難な方**
自立歩行が困難や撮影台の手すりを握ることが難しい
検査のための体位変換（寝返り）ができない 体重が130kg以上
- 9 **妊娠中または妊娠していると思われる方**

自覚症状がある方、バリウム検査で毎回「精密検査」の方は、医療機関での検査をお勧めします。

胃がん検診について、ご理解の上お申し込みください

この検診は、バリウムを使って胃の粘膜状態を写し出し、病変の有無を確認するもので、“胃がん”をはじめ、“胃潰瘍”や“ポリープ”などの疾患を見つけることができます。

なお、この方法では、胃の粘膜に変化があらわれにくいがんや、病変が骨や十二指腸の影になる部分にある場合などは、見つけることが困難な場合があります。

この検査で「異常なし」と判定されても、病気を100%否定するものではありません。

胃がん検診前日・当日のご注意

前日の夕食は、検診受付の10時間前までに済ませてください。就寝までの飲水制限はありませんが、飲酒はお控えください。

当日の朝食は摂らないでください(検診が受けられなくなります)。検診受付の2時間前までであれば服薬や熱中症予防のための飲水(コップ一杯程度)は、差し支えありません。

服薬

服用	薬の種類	方法
×	糖尿病薬 (血糖降下剤・インスリン)	絶対に服用しないでください (低血糖発作の恐れがあります)
	その他の常用薬 (血圧・不整脈・心臓病など)	起床後早めに服用してください

画像不良の原因となるため、入れ歯安定剤は検診終了まで使用しないでください。

服装は、ボタンや金具、刺繍のないもの(無地のTシャツなど)を着用し、腹部を締め付ける衣服はお控えください。

次の方は検診当日の体調などにより受診できません。

糖尿病で、検査前に経口血糖降下剤を服用またはインスリンを使用
3日間排便がないまたはひどい便秘

検診会場で計測した血圧が高い(上180mmHg以上または下110mmHg以上)

このリーフレットは、『胃X線検診安全基準』(発行：日本消化器がん検診学会
関東甲信越支部)を参考に作成しています。



当協会のホームページから胃がん検診の
詳しい内容をご覧ください。